

## 会 議 録

|        |   |
|--------|---|
| 会議の名称  | 令和4年度第4回富士見市社会教育委員会議  |
| 開催日時   | 令和4年10月3日(月)午後7時00分～8時15分                                   |
| 開催場所   | 中央図書館 視聴覚ホール  |
| 出席者    | 古澤立巳議長、荒川照子委員、京谷恵子委員、吉田徹子委員、蘇武伸吾委員、渡邊知広委員、内海幸一郎委員、富士伸委員、事務局 |
| 欠席者    | 佐々木眞理子副議長、吉田和江委員  |
| 公開・非公開 | 公開(傍聴人 0人)  |
| 会議次第   | 1 議長あいさつ<br>2 協議事項<br>3 その他                                 |
| 会議資料   | ・定期刊行物<br>・資料1「提言書(案)概要」<br>・資料2「つながり・生涯学習・社会教育について(抜粋)」    |
| 会議録確認  | 古澤立巳議長  |

## 会議内容

### 1 議長あいさつ

【議長】 後ほど事務局から説明があると思うが、今日の会議では経験や活動を通して気付いたつながりの重要性について、各委員からお話を伺っていく。「つながり」という問題について、深めていく時間にできれば。

### 2 協議事項

【議長】 では、まず事務局から資料の説明を。

【事務局】 資料に基づき説明。

【委員】 ガスや電気、水道などインフラ設備の整っていない環境で宿泊するという授業があり、学生たちと一緒に一週間参加してきた。人とのつながり、助け合いの大切さを実感した。携帯電話も使えない状況で、不便ではあったが、やってみたら楽しかった。課題意識があったり、経験したことを共有したりすることから、楽しさが生まれるのだと思う。つながりについて、私は「居場所」と考える。携帯電話等の普及により、なんでもインターネットですぐに検索できるようになった。それに伴って、人に教えたり、教えられたりすることが極端に減っている。人とコミュニケーションを取って聞くという行為をしなくなった。バーチャル世界で完結してしまうので、人に教えてもらうありがたさや、「教えて」と頼ってもらう喜びも感じることはできないのではないだろうか。メタバースの世の中を創って、その中で生活するとどのような不安が出てくるのか研究しているが、人と話したいという欲求が出てくるのではないかと考えている。つながりとは、人と人との対面してコミュニケーションをとる環境を作ることが必要なのではないかと思う。今の人は、課題意識があれば取り組んでくれる。しかし地域の課題は見えていないので、地域の中にある課題やビジョンを共有することがまずは必要なのではないかと考えている。

【委員】 例えばPTA役員やボランティアなど、忙しくて協力するなんて無理、と思っても、いざやってみるとみんなとても楽しそうに取り組んでいる。役員をやってよかった、という声も聞いたことがある。役員同士のつながりもできるし、地域の人とのつながりもできるし、学校の先生方とのつながりもできる。なにかをやるにあたって、自分の今の生活になにかを増やす、ということは難しく、なかなか一歩を踏み出すことができない。しかし、お仕事がリモートになり時間ができたからと学校の除草作業に参加してくれるお父さんがいるなど、なにも協力してくれないというわけでは決してなくて、きっかけを作ることが重要なのだと思う。比較的若い世代の方も興味を持てるよう、例えばオンライン会議の活用など、取り組んでいくことが重要なのかと思う。私が、つながりが大事だと感じたきっかけについては、私自身「大変だな」と思いつつPTA役員を引き受け、そこをきっかけに子ども教室や地域の活動に携わるようになった。私は富士見市出身ではないので、もしそこで役員になってい

なければ、子どもの親世代の人としか知り合えなかったかもしれない。しかし、色々な活動に参加することで、若い人から自分の親世代の人まで、知り合うことができた。コロナ禍になり、様々な活動が中止になってしまった時でも、近所でお会いした際にはお互いに心が温まった。お相手の方は私のことを心配してくださっていたし、私の「お元気でしたか」という言葉を、とても喜んでくださった。また活動を通して知り合った子どもたちが、今は小学校高学年や中学生など、挨拶を恥ずかしがる年頃になってきたが、それでも会うと声をかけてくれる。些細な事ではあるが、コロナ禍になって一層、そういった声掛けできる関係などの小さなつながりの大切さを感じている。「大変だな」とは思いつつ、しかし活動を継続してきたからこそ色々な方達とお知り合いになれたし、つながりの大切さに気づくことができた。

【議長】 資料1「提言書（案）概要」について、前回までの会議でも事務局から提示されていたが、今回内容を変更してある。テーマに対してよりコミットした形になっているかと思う。

【委員】 淑徳大学の学生が、子ども大学☆ふじみや子どもスポーツ大学☆ふじみなど、富士見市のさまざまな事業でお世話になっている。授業の中で活動を共有する時間を設けているが、学生は本当に楽しんで活動に参加している。最初は不安で仕方がなかったが、最後には子どもたちに「ありがとう」と言われて感動した、と言っている学生もいた。コロナで活動が難しかった時期もあったかと思うが、教員を目指している学生が殆どなので、座学だけではなく、実際に子どもたちと触れ合う機会を本当に楽しんでいて。最初は億劫に感じても、参加してみると楽しい。参加するためのなにかきっかけがあれば、みんなに楽しさを感じてもらえるのではないだろうか。学生の中に、社会の縮図が見えると思った。最初は失敗しないように、怪我をさせないように、身構えているが、その内自分も楽しくなって、それにつられて子どもも楽しくなって、最後には子どもから「ありがとう」という感謝の言葉をもらえた。今、学生は感謝の言葉をもらう機会がなかなかない。学生には「こんな関わり方しかできなかったのにありがとうと言ってくれた」という思いがあり、次の機会にはもっとこうしたい、という成長につながる。他者と関わり、感謝の言葉をもらうというつながりは、そういう意味でも重要なものと考えられる。

【委員】 若い保護者の方達にもそういう方がいる。子ども教室で、各地区の育成会からお手伝いに来てもらっていたが、「子どもとどう接していいのかわからない」というお母さんが何人かいた。失敗をしてはいけないという気持ちが強いのかと思う。一歩踏み出す時も、失敗したくないという思いがハードルになってしまっているのではないだろうか。

【委員】 社会教育という枠から離れてしまうかと思うが、私は今、企業の中で社会課題の解決をテーマに業務として取り組んできている。震災後の復興支援という課題に取り組んだ際に顕著に感じたのは、社会の中につながりがあるとされている地域は、復旧復興が早かった。ただ以前の形に復旧するのではなく、より良い形でリスタートできており、それはつなが

りの効果だったのではないかと考えている。自分だけではなく、他者とつながることにより、視野を広げ物事を見ることができ、新しい気づきを得るきっかけにもなり得たのではないだろうか。社会教育の観点に立ち返って考えると、何らかの形で、自分の日常の関係の枠を飛び越えてつながりを持てると、自分では思わないような気づきを得ることができるのではないだろうか。また、新しい価値をもたらす機会にもなり得るのではないだろうか。レジリエンスを高めることにも効果があると考え

**【議長】** 小学生、中学生のお子さんがある家庭においては、学校に関連したつながりが殆どであろう。私は自分の子どもが大きくなってから富士見市に引っ越してきたので、学校関連のつながりを築くことができず、今住んでいる地域でのつながりというのは、自分から前に出て作っていかないと築くのが難しかった。

**【委員】** 夏休みを終えて感じたことだが、私が子どもの頃は、色々な所に連れ出してくれる近所の大人がいた。しかし今、自分の子どもの友達を連れだせるかと言うと、なにかあった時の責任を感じてしまい難しい。時代の変化による、つながることの難しさを感じた。また、やってみたら楽しめる人がいる、というお話を聞いて思ったのは、コミュニケーション力の低下。コミュニケーション力の問題でつながることができないだけで、人と人をつなげる工夫が何かあれば、他者とのつながりを楽しんでくれる人は多いのではないだろうか。また、私は川崎市出身だが、地域のつながりがとても強い地域だった。富士見市に住むようになり、近所の人が誰も自分を知らない環境になった。しかし結婚して子どもを育てるようになり、子どもがきっかけで近所の方ともつながりができ、環境がよくなったと感じており、必要性を感じた。私は隣近所と言う小さなコミュニティの話だが、このつながりを広げることができれば、より住みやすく治安のいい街に繋がっていくのではないだろうか。私が子どもの頃は、地域の子供達はみんなつながっており、親同士もつながっており、地域に守られている環境だった。大人になった今振り返ってみると、とても良い環境だったのだと思う。子どもが安心して生活できる環境だった。

**【委員】** 復興支援のお話に関連して、阪神淡路大震災から何年か経ったときに、公民館だよりで特集を組もうという話になった。その時にいろいろお話を伺って印象深かったのは、水など毎日たくさんの物資を運ばなくてはいけないという状況の中で、顔も知らなかった中学生が助けてくれたという話。それをきっかけに仲良くなったそう。子どもたちが街のために何ができるか考えた時に、やれることがたくさんあってすごく嬉しかったという声も聞いた。大人だけで支援や復興に取り組んでいくのではなく、そこに必然的に子どもたちも巻き込まれて、一つの歯車になり復興が進んでいったという話を聞いた。また親子で参加してもらった事業を開催した時に、保護者は自分の子どもとは違うグループになるよう主催者側で調整したことがあるが、とてもうまくいった。子どもを巻き込むときには、そういった工夫も必要なのかと思う。今やっている子ども食堂

に関して、アンケートがあり回答したところ、それに対する回答が返ってきた。世代をこえた活動であるとの評価だったが、私たちが目指しているのは、まさに子どもだけでなく、大人も巻き込んだ活動をしたいと思っていたので、方向性は合っていたのだと思った。貧困世帯への救済として始まった子ども食堂だが、今は多世代交流を目指しているところも増えてきている。地域の様々な大人が参加することで救える子どもが出てくるかもしれない。

【委員】 私も南畑地域で子ども食堂に関わっている。子どもの孤食を防ぐために活動している。こだわっていることは、南畑地域の食材を使うこと。農家の方が多いので、お米や栗など、提供していただける。先日は、私が子ども食堂で活動していると知った農家の方が、お米を60キロ持ってきてくれた。お弁当を作ってみんなに配布したが、それでも残ってしまうので、密封袋に入れて配布した。手伝ってくれる人も多く、年代も様々で、みんなで一所懸命取り組むことは楽しいし、それが子どものためになっていると思うと、やりがいを感じる。楽しく活動できている。

【議長】 子ども食堂で言えば、来てくれる子どもたちや保護者の方とのつながりだけでなく、手伝ってくれる人たち同士をつながりを築くことができる。

【委員】 他にも、子ども食堂に来てくれている人が、普段は学校のお手伝いをしているようで、私たちがなにかイベントをやる際にはお手伝いとして参加してくれた。子どもがよく知っている人なので、懐いて楽しそうに一緒に遊んだりしていた。

【委員】 つながりの必要性だけを考えると、それは「安心」ではないかと考える。安心を得るためにつながる必要がある。しかし社会教育委員として考えるのであれば、自分の人生を豊かにするため、だとか、地域を活気づけるため、など、踏み込んで考える必要があるのではないだろうか。しかしつながりの必要性を、つながりを必要と感じていない人に訴える言葉はなにか考えると、大変難しい。人と関わり合うことを当たり前と感じるよう土壌を養成するためには、いかに子どもの頃から多様な場、多様な方法で楽しさを感じてもらうか。また地域とつながることを楽しいと感じる感覚を持っている世代の方が、いかに子どもたちに還元するための活動ができるか。子どもを軸として、自分自身も地域とのつながりから恩恵を受けてきた世代と、自分の親ぐらいの世代と、横のつながりを築けるよう、計画的に実施していく必要があるのではないかと感じている。つながることにメリットを感じていない人を巻き込んでいくのは難しい。例えば個人で没頭できる環境を提供して、しかしその周りにはたくさんの方がいて、そこで何らかの接点が生まれるような仕組みを考えていくのがよいか。

【委員】 しっかりとしたつながりだけでなく、緩やかなつながり、その人にとって適度な距離間のつながりというものを考えていく必要があるのだと感じた。

【委員】 徹底的に効率性を求めた社会はどのようなものか、研究している。効率性だけを追求した先に見えるものは何か。私は校長を務めていたが、校務員さんが校長室にお花をいつも飾ってくれていた。効率性だけを求め

るのであれば、お花は不要のものである。しかし実際には心に潤いが生まれる。これが社会教育につながっているのではないかと考えている。今まで効率性を求めて切り捨てていったものの中に、大事なものがあつたのではないか。「ありがとう」という他者への感謝の気持ちや、「ちょっといい？」という言葉、先輩の話を聞いて「すごい」と思う心など、横のつながり、縦のつながり、意図的に作ってあげないと、築くことは難しいのではないだろうか。関わってしまえば動き出せる。関わることができないう環境が、一番の課題なのではないか。

【委員】 はじめの一步を踏み出すためのきっかけがどう散らばっているか。選択可能な状態になっているかどうか、ということが重要なものかもしれない。

【委員】 学校運営支援者協議会の委員として授業参観を見学した際に、友達のいい所を何個か書き出してみんなの前で発表するという授業をしていたクラスがあつた。改めていい所を人から言われると、やはり子どもたちはとても嬉しそうにしていた。保護者会でも同じように、自分のいい所と子どものいい所を発表してください、という先生がいて、恥ずかしさもあつたが、やってみると保護者同士の会話も広がり、いいなと思った。今の保護者会は先生が一方的にお話をして終わると聞いた。子どもの様子だけを話すのではなく、保護者同士でつながれるような取組ができないうだろうか。また何ヶ月か前の広報「富士見」と一緒に配布された社会福祉協議会のチラシで、フローチャートで自分に当てはまる選択肢を選択していくと、自分に向いている活動を教えてくれるという記事があつた。みんながみんな興味を持つ訳ではないが、ただ活動が羅列されているだけのものよりわかりやすくいいなと思った。そういう工夫で、一步踏み出すことを支援できるのではないか。

【議長】 次回の会議でもう一度つながりの必要性について話し合っていきたい。また、つながりを築くために必要な取組について、具体的に提案できるよう考えていければ。

### 3 その他

【事務局】 10月20日（木）に入間地区社会教育協議会社会教育委員部会が主催の、社会教育委員研修会が開催される。参加を希望される方は事務局までご連絡いただきたい。

【議長】 コロナの影響を鑑み、今年度も研修会は講演のみで、分科会は行われないう。他市の社会教育委員の活動内容を知りたいという意見もあり、分科会を開催してほしいという意見もあつたが、情勢を鑑みて講演会のみとなつた。お時間があつたらぜひご参加いただきたい。

#### 次回会議日程

令和4年度第5回会議

日程：令和4年11月18日（金）午後7時～

場所：中央図書館 集会室

